

基地がありや、ミサイル車両は島中に

2017年4月11日 FB ページに投稿



I LOVE いしがき HP



I LOVE いしがき FB

石垣島に陸上自衛隊のミサイル基地が作られても、ミサイルは基地の中に置かれて外には出てこない、と思っていないですか？いいえ、出てきます。そして、島中を動き回ります。だから、有事には、島中が相手の攻撃目標になります。

写真をご覧ください。防衛省が石垣島に配備しようとしている12式地対艦ミサイル（写真1）と03式地対空ミサイル（写真2）です。両方とも、大型車両（トレーラー）に乗っています。6本の四角い筒（キャニスター）が見えますが、その各々にミサイルの本体が入っています。どちらの写真も、2016年度の陸上自衛隊富士総合火力演習の時に撮影されたものです（<http://car.watch.impress.co.jp/docs/news/1016813.html>より）。



写真1 12式地対艦誘導弾（ミサイル）



写真2 03式地対空誘導弾（ミサイル）

このトレーラーは、単なる輸送用車両ではなく、「移動式発射台」です。ある地点まで走行して（写真3）、6本の筒（発射台）を起立させ（写真4）、発射します（写真5）。一度に6発のミサイルを、別々の目標に向けて撃つことができます（写真3～5は、陸上自衛隊および防衛装備庁のホームページより）。



写真3 移動



写真4 発射台起立



写真5 発射

固定式発射台ではなく移動式にするのは、相手のミサイルにやられないようにするためです。固定式発射台なら偵察衛星で簡単に見つかり、戦争が始まった途端に吹っ飛ばされるおそれがあります。しかし、偵察衛星は、同じ場所の上空には1日に数回、数分間しか

現れません。そこで、偵察衛星が上空にいない間に別の場所に移動してしまえば、相手に探知されず、狙い撃ちもされずに発射できるのです。最近では、世界中のミサイルのほとんどが移動式です。

ですから、陸上自衛隊の地对艦、地对空ミサイルは、有事には島内各地に展開して、いろいろな場所から相手の船を攻撃したり、航空機や巡航ミサイルを迎撃したりするものです。そうであれば、日頃から、展開訓練を繰り返し行うでしょう。島ではミサイルの実射訓練はしませんが、発射の寸前までは何度も練習しておかねばならないからです。

有事と同様の編成で行う場合、展開訓練には、幅 2.5m、長さ 11m、車両重量 24.8t という超大型のミサイル発射台トレーラーのほか、予備弾・弾薬運搬車、指揮統制車、射撃管制車など、何台もの車両が参加し、ひとつのユニットとして車列を組んで、島内各地に向かいます。

地对艦ミサイル部隊は約 100 人の規模ですから、こういうユニットが数組配備されるでしょう。地对空ミサイル部隊も同じです。ということは、これらの車列群が、結構頻繁に島中を動き回ることが予想されます。おそらく、展開訓練は、偵察衛星に探知されにくい夜間や曇天の日を選んで行うでしょう。

これにより、

- 1) 騒音、振動、安眠妨害、交通制限、道路の損傷、事故などの「基地被害」が、全島に拡がります。
- 2) 有事には、相手のミサイルは、「狙い撃ち」はできないので、「下手な鉄砲数打ちや当たる」式の「飽和攻撃」で、ミサイル車両がいそうな場所を全て襲います。つまり、基地だけでなく、島中が火の海になります。

この島にそんな明日が来ることを、誰が望むでしょうか？